



横浜美術館
コレクション
フレコズ



2016



横浜の宝物を未来へつなぐサポーター募集中!



横浜美術館
YOKOHAMA MUSEUM OF ART



第1条——趣旨

この規約は、横浜美術館の作品保存・展示の資金支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ2016」(以下、フレンズ)への運営および参加に関する、必要事項を定めるものです。

第2条——管理運営者

フレンズの管理運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団横浜美術館(以下、横浜美術館)が行います。

第3条——フレンズの目的

横浜美術館所蔵作品(以下、所蔵作品)の「保存」と「展示」のため、広く市民から資金支援を募ります。それにより所蔵作品、ひいては横浜美術館に親近感をもっていただくことを目的とします。フレンズの参加費は、所蔵作品の修復や備品購入等に活用するとともに、横浜美術館コレクション展の準備・開催費用に充当します。

第4条——参加者の募集

フレンズの募集は、横浜美術館ウェブサイトや広報媒体等にその募集要項を公開します。

第5条——募集条件

募集の対象者は16歳以上とします。ただし、未成年者は酒類を提供するイベントをはじめ、未成年者参加不可のイベントには参加できません。

第6条——募集期間

第4条により横浜美術館が募集要項を公開した日から、2016年11月30日までとします。

第7条——支援対象期間

2016年4月1日から2017年3月31日までとします。

第8条——参加費について

一口10,000円(消費税対象外)とします。複数口参加も可能とします。但し、複数口参加の場合の特典は第13条で定める通りとします。

第9条——参加申込方法

参加希望者は、横浜美術館ウェブサイト上の申込フォーム、または横浜美術館が指定した申込用紙に必要事項を記入のうえ、送信または郵送します。その後、横浜美術館が送付する郵便振替用紙に必要事項を記入し、参加費を送金します。横浜美術館が着金を確認した段階で、参加申込受付完了となります。

第10条——フレンズカードの発行

参加者には参加申込完了の1週間後を目処に、参加者1名につき1枚のフレンズカードを発行します。フレンズ参加者特典を利用する時には必ず提示するものとし、提示の無い場合には特典の提供を受けられません。

第11条——フレンズカードの貸与について

フレンズカードの利用は参加者本人に限り、いかなる場合も貸与・譲渡はできないものとします。

第12条——フレンズカードの紛失および再発行について

フレンズカードを紛失した場合は、横浜美術館へその旨を申請し、再発行を受けるものとします。その時点で、旧フレンズカードは使用不可となります。

第13条——参加者特典について

参加者特典 ご支援期間中に以下の特典を提供します。

①横浜美術館内および横浜美術館ウェブサイトにお名前掲出(希望者のみ)

②申込み1名につきフレンズカードを1枚発行

(本人のみ使用可。裏面に会員番号と参加口数記載。)

③フレンズカードの提示で、横浜美術館コレクション展に何度でも入場可

(参加口数と同等の人数で利用可。例：二口参加→毎回2名様入場可)

④横浜美術館の各企画展招待券を進呈

(各展、参加口数と同等の枚数を進呈。例：二口参加→各展2枚ずつ進呈)

⑤横浜美術館コレクション展の会期ごとにコレクション・フレンズ参加者を

対象とした特別イベント「コレクション・フレンズ・ギャラリートーク(芸芸員

の解説付き鑑賞会)」へ招待

(参加口数と同等の人数で参加可。各回定員制。要事前申込み。)

⑥ご支援期間中に2回(前期1回、後期1回)「コレクション・フレンズ レクチャー

& 交流会」へ招待

(同伴2名様まで参加可。各回定員制。要事前申込み。)

⑦フレンズカードの提示で、ミュージアム・カフェ「Café小倉山」のメニューを

10%割引で提供

三口以上の参加者には上記と併せて下記の特典も提供

⑧横浜美術館の各企画展オープニング内覧会へ招待(本人のみ)

⑨横浜美術館の各企画展カタログを1冊進呈

第14条——参加者特典提供期間について

2016年4月1日以前に申込受付が完了した場合の特典利用期間は、2016年4月1日から2017年3月31日までとなります。また、2016年4月1日以降に申込受付が完了した場合の特典利用期間は、申込受付完了日から2017年3月31日までとなります。

第15条——著作権

フレンズの運営や特典で発生する著作権などの一切の権利は、横浜美術館に帰属します。

第16条——禁止事項

次の各号に該当する参加者の行為を禁止します。また、本条に抵触する行為が認められた場合、横浜美術館は当該参加者を強制退会させることができます。

①法令等に違反し、参加者特典を利用する行為。

②個人の活動、企業の宣伝、製品の販促および営業を目的として参加者特典を利用する行為。

③フレンズカードの譲渡、貸与および転用。

④美術作品や美術館建物、什器備品を故意に破損する行為。

⑤その他、横浜美術館に重大な損失を与える行為。

⑥その他、横浜美術館が不適当と判断する行為。

第17条——参加費の返金

横浜美術館の責に帰すべき理由によりこのプログラムの継続が困難となった場合には、公示した支援対象期間にかかわらずフレンズの運営を停止し、参加者に参加費を全額返金します。返金の際に生じる手数料は横浜美術館が負担します。但し、強制退会を含む参加者の責に帰すべき理由により退会する場合には、参加費を返還いたしません。

第18条——個人情報の取り扱いについて

申込受付の際にお預かりする個人情報は、横浜美術館プライバシーポリシーに基づき適正に取り扱います。

(横浜美術館プライバシーポリシー<<http://yokohama.art.museum/policy/privacy.html>)

附則(施行期日) この規約は、2015年12月1日より施行します。

参加者特典 ご支援期間中に以下の特典をご提供します。

- ① 横浜美術館内および横浜美術館ウェブサイトにお名前を掲出します。(希望者のみ)
- ② お申込み1名様につき「フレンズカード」を1枚発行します。
(ご本人様のみ使用可。裏面に会員番号と参加口数が記載されています。)
- ③ 「フレンズカード」のご提示で、横浜美術館コレクション展に何度でもご入場いただけます。
(参加口数と同等の人数でご利用いただけます。例：二口参加→毎回2名様入場可)
- ④ 横浜美術館の各企画展招待券を進呈します。
(各展、参加口数と同等の枚数を進呈します。例：二口参加→各展2枚ずつ進呈)
- ⑤ 横浜美術館コレクション展の会期ごとにコレクション・フレンズ参加者を対象とした特別イベント「コレクション・フレンズ ギャラリートーク(学芸員の解説付き鑑賞会)」へご招待します。
(参加口数と同等の人数でご参加いただけますが、各回定員がございます。要事前申込み。)
- ⑥ ご支援期間中に2回(前期1回、後期1回)「コレクション・フレンズ レクチャー&交流会」へご招待します。
(同伴2名様までご参加いただけますが、各回定員がございます。要事前申込み。)
- ⑦ 「フレンズカード」のご提示で、ミュージアム・カフェ「Café 小倉山」のメニューを10%割引でご提供。

三口以上参加の方には上記と併せて下記の特典もご提供します。

- ⑧ 横浜美術館の各企画展オープニング内覧会へのご招待(ご本人様のみ)
- ⑨ 横浜美術館の各企画展カタログを1冊進呈

募集要項

参加費 一口 ¥10,000

複数口のご参加も承ります。

※消費税は対象外につき掛かりません。

支 援 期 間 2016年4月1日～2017年3月31日

受 付 期 間 2015年12月1日～2016年11月30日

特典ご利用期間 2016年4月1日～2017年3月31日

(2016年4月1日以降にご参加の場合は、受付完了日～2017年3月31日)

お申込み方法

Step1

横浜美術館ウェブサイト「コレクション・フレンズ」ページの専用申込フォームでお申込みください。

横浜美術館
ウェブサイト

<http://yokohama.art.museum/>

※ウェブサイトからのお申込みが不可の方は、下記「横浜美術館コレクション・フレンズ係」までお問合せください。

Step2

お申込み受付後に郵便局の振込用紙を郵送しますので、到着後1週間以内にお振込みをお願いします。ご入金確認後1週間以内に、参加者特典一式を郵送します。

※振込用紙送付から10日を過ぎてもご入金の確認ができない場合、お申込みはキャンセルとさせていただきます。

▶ご来館時のお申込みも承ります。

お問合せ

横浜美術館コレクション・フレンズ係

Tel: 045-221-0300 (代表) Fax: 045-221-0317

E-mail: yma-friends@yaf.or.jp

コレクション・フレンズとは？

横浜美術館の所蔵作品（横浜美術館コレクション）の保存、修復、展示を行う資金を充実させるための、個人参加型芸術支援プログラムです。

一口10,000円で、どなたでもお気軽にご参加いただけます。ご参加いただいた方には、横浜美術館をよりお楽しみいただける、様々な特典をご用意しています。展覧会を鑑賞するだけでなく、その一歩先の活動に踏み出してみませんか？



コレクション・フレンズ ギャラリートークの様子

館長からのメッセージ

横浜美術館は10,000点を超える美術作品で構成された「横浜美術館コレクション」を所蔵しています。その内容はピカソやセザンヌなどの西洋画、横山大観や下村観山などの日本画、イサム・ノグチやブランクーシなどの彫刻、他にも写真、工芸、現代美術など多岐にわたり、世界的にも大変重要な作品が多く含まれています。

「横浜美術館コレクション・フレンズ」は、美術を愛する多くの人々と横浜美術館が共に手を携え、この優れた美術作品を未来へ繋ごうという主旨のもと2010年にスタートしました。ご賛同くださる人の輪が年々広がっていることをとても嬉しく、また頼もしく感じております。

定期的に行っているギャラリートークや交流イベントでは、何年も継続的にご支援くださっている方と新しいご支援者、そして美術館スタッフが同じ時間を共有し、時間が経つのも忘れてアート談義に興じています。その様子の先に、この国の文化的で明るい未来が見えてくるようです。

このパンフレットを手にした方が、「横浜美術館コレクション・フレンズ」の新しい仲間として、この輪に加わってくださることを、心より願っております。



横浜美術館 館長 逢坂恵理子

2016年度
テーマ作品

横浜美術館 コレクション フレンズ



01 西洋画

ガブリエーレ・ミュンター
(1877-1962)

《抽象的コンポジション》

1917年 | 油彩、板 | 23.4×59.4cm

軽快な筆致で描かれた色とりどりの線と形態が、横長の画面いっぱいに踊っています。作者のミュンターは、20世紀初頭のドイツ表現主義の女性画家です。本作には、彼女の恋人であったヴァシリィ・カンディンスキーの抽象絵画の影響が顕著にあらわれています。題名に含まれた「コンポジション」という言葉は、カンディンスキーが標榜した、形態と色彩を理知的に構成した、音楽のように純粋な絵画のことです。実はこの作品が完成した1917年、二人はすでに破局し、ミュンターは失意の底にありました。そんななかで本作を描いた彼女の思いを想像しながら鑑賞するののも一興でしょう。

ゆっくりと時間をかけて、
深くご説明したい作品が揃いました！

横浜美術館 主席学芸員 柏木智雄

2016年度も、横浜美術館コレクションの中から選りすぐりの7点をテーマに、4回(8日程)のギャラリートークを展開します。

皆さんにはそれぞれお好みの美術があると思いますが、まずは先入観に囚われず、この7点の作品と向き合ってみてください。色彩や素材のこと、技法のこと、時代背景のこと、またひとりの人間としての作家のエピソードなどに触れていただくことで、今まで気

付かなかった作品の魅力を見つけられるかもしれません。

コレクション・フレンズのギャラリートークは、作品との新たな出逢いを大切に作る時間です。担当の学芸員は、通常の展覧会ギャラリートークよりも、さらに一歩作品の内側に踏み込んだ解説をします。美術に対する好奇心だけを持って、是非お楽しみください。皆様とお会いできることを楽しみにしています。



02

日本画



荘司 福 (1910-2002)

《春律》

1986年 | 紙本着色 |
170.0×345.0cm | 荘司福氏寄贈



しゅうじ ぶく
荘司福は神奈川県立高等女学校(現・県立横浜平沼高校)で美術への道を志します。女子美術専門学校(現・女子美術大学)を卒業後、1946年から院展を主な作品発表の場としました。第71回院展出品の《春律》は円熟期の秀作の一つ。4月半ばでも時に雪が降り、視界が薄れるような山の溪谷。岩間を流れ落ちる滝は、水量はまだ少ないけれど、密やかに流れる水の音に春の訪れをひとと感ぜさせます。よく見れば木々の枝先は芽吹き、残雪の中に春が来る喜びに心がふくらむ——画家は「そんな清らかな自然の動き行く氣にふれて」描いたと述べています。

福田美蘭 (1963年生まれ)

《風神雷神図》

2013年 | アクリル絵具、パネル | 181.8×227.2cm

みくろみらん
福田美蘭は、古今東西の名画や、誰もが知るキャラクターなどを素材に、それらの“オリジナル”のイメージを揺さぶり、「見るという行為」そのものについて考えさせるような絵画を作りあげていきます。この作品は、福田が敬愛する江戸初期の画家・俵屋宗達(はなやむねたけ)の《風神雷神図屏風》をもとにしています。尾形光琳(おしなげみつらみ)や酒井抱一(さかいぶかいち)による模写をはじめ、時を越えて後世の画家に受け継がれてきたこの題材で、福田は宗達作品の躍動感や生命力を、おらかな線で感覚的に捉えようとしています。近年は抽象画に通じる表現に取り組んでいる福田の、今後のさらなる展開を予感させる作品です。

03 日本洋画





©2015 - Succession Pablo Picasso - SPDA (JAPAN)

パブロ・ピカソ (1881-1973)

《帽子をかぶった婦人》

[第7・最終ステート]

1962-63年 | カラーリノカット | 53.0×40.0 cm

黒、赤、緑、黄色、水色・・・と目に鮮やかな女性像は、実はたった一枚のリノリウム版を、彫ってはある色で刷り、彫ってはまた別の色で刷り、という作業を重ねて描きだされました。版はどんどん削り取られていくので、一段階前に戻って刷り直すといった軌道修正はできません。そんな制約と緊張感に満ちた制作過程にあっても、ピカソの創造はどこまでも自由で大らかです。最後には、別作品で用いた額縁の版を再利用。そんなちょっとした工夫にも、画家のあそび心が感じられます。段階刷りや試刷りなど、横浜美術館所蔵の15種の刷りを一挙公開します。



版画

04

熊井恭子 (1943年生まれ)

《叢生'99》

1999年 | ステンレススチール線 |
30.0×300.0×400.0 cm | 熊井恭子氏寄贈

テキスタイル・アーティストの熊井恭子は、1970年代の後半から、「風を孕む布」を表現するために、繊維にステンレススチールを織り込むことをはじめ、やがて金属線のみを絡み合わせる制作を展開していきました。風ふきわたる草原のように床からスチール線の群が立ち上がる本作は、1999年の横浜美術館の企画展「世界を編む」に出品されました。細い線が規則正しく並び、美しい曲線を描くさまは、生命体の細胞の成り立ちを想わせる、と語る熊井。「叢がり生うる」という生成のイメージを内包するタイトルも、そんな作家の世界観を伝えてくれます。



05 工芸

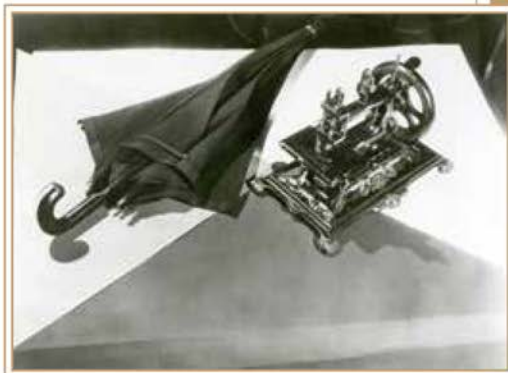
マン・レイ (1890-1976)

《解剖台の上のミシンと蝙蝠傘の
偶然の出会いのように美しい》

1935年頃(後年のプリント)

セラチン・シルバー・プリント | 20.2×27.9cm

タイトルは、19世紀の詩人ロートレアモンの『マルドロールの歌』の一節。異質なもの同士の結びつきが新しい輝きをもたらす、というその趣意によって、のちのシュルレアリスム運動において象徴的に用いられたフレーズです。その運動の一員であったマン・レイは本作で、いわゆる静物写真のスタイルを借りてこの言葉を視覚化しています。幾何学的に色分けされたテーブルの上で、2つの異質なオブジェが互いの領域をわずかに侵犯しあう構図の妙。卓越した写真家であり、またシュルレアリストとその活動の「記録者」としても重要な存在であったマン・レイの面目躍如たる一作です。



©MAN RAY TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2015 G0199

06 写真



彫刻 07

イサム・ノグチ (1904-1988)

《真夜中の太陽》

1989年 | 赤と黒の花崗岩 | 220.5×199.0×119.0cm

ぶ厚い^{かこうがん}花崗岩でできた正方形の台座。その上面中心では、赤と黒の花崗岩の部材計18個をつないだ円環が一点で支えられています。精密な形態ですが、なめらかな石の表面は温かみを帯びています。正面から見ると台座の縁が奥行きを感じさせ、円環の縞は放射する光線のように見えます。この光の環に縁どられた円形の虚空を、作者は「皆そこからやってきて、再び戻っていくところ」と語っています。ノグチは「太陽」を何度か作りましたが、本作は彼の死後に助手の手で完成されました。



©2015 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum / ARS, New York / JASPAR, Tokyo G0198